

米国経済点描 (2008. 9. 08)

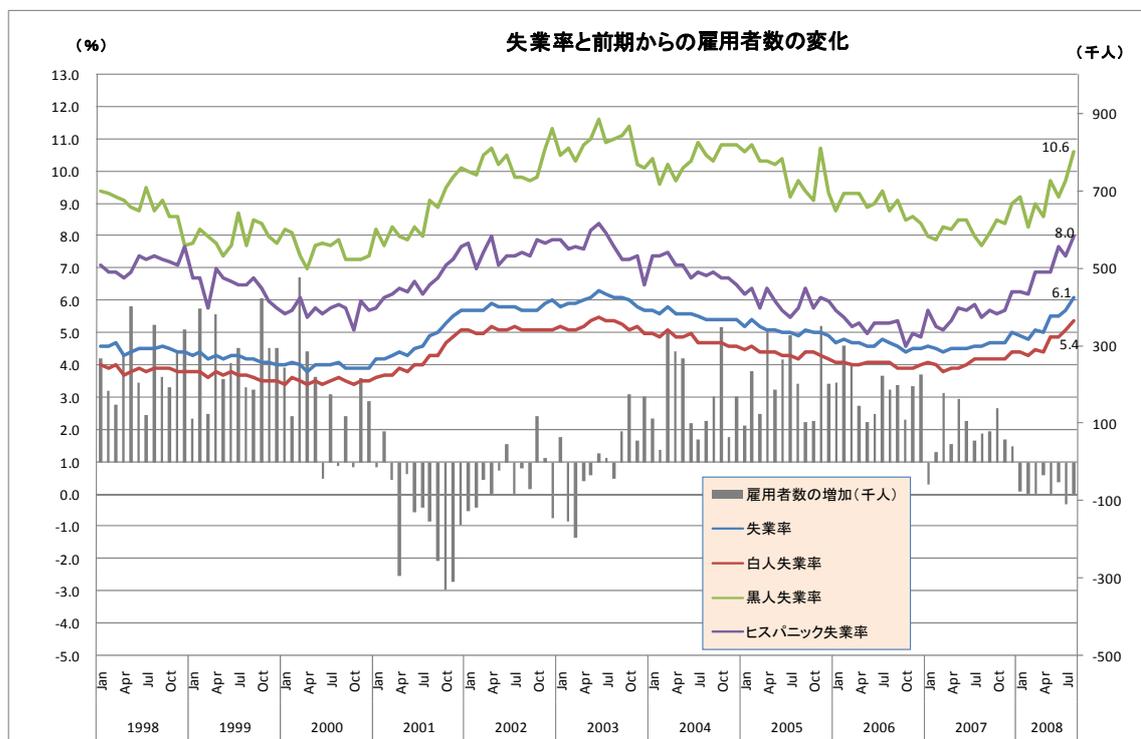
～2008年8月の失業率～

9月5日に米国労働省労働統計局(BLS)が公表した世帯調査に基づく2008年8月の失業率(季節調整済み)は、前月の5.7%から6.1%と悪化した。また、同調査に基づく5月の就業者数の暫定値は、1億4,547万7千人で、前月より34万2千人減少し、4ヶ月連続の減少となった。この1年間で失業率は1.5ポイント上昇している。また、10代若者の失業率は18.9%と高い。失業率が6%を超えたのはITバブル崩壊後の2003年10月以来。

一方、事業所調査に基づく非農業部門の雇用者数(industry payroll employment)も、季節調整済みの暫定値で8万4千人減少(前月は修正値で10万9千人減少)した。これで雇用者数の減少は本年1月から8ヶ月連続となった。

ヘルスケアサービスと鉱業では雇用増傾向が続いているが、建設、製造業、卸売業、情報サービス業、人材紹介業で雇用が減少している。

いよいよIT不況時の失業率のピークであった6.3%に近づきつつある。



○お問合わせ先○

株式会社アクシスリサーチ研究所 〒107-0052 東京都港区赤坂渡辺ビル4F
 TEL 03-5572-7770 FAX 03-5572-7771 E-mail [contact\("atmark"\)axis-research.co.jp](mailto:contact@axis-research.co.jp)